

大麦の生育(出穂等)予想と今後の管理

< 管理対策のポイント >

- ・ 止葉抽出期追肥の確実な実施で1穂粒数・千粒重を確保
- ・ 赤かび病の2回防除で品質向上

1 生育状況

茎立ち期以降は曇天の日が多く、低温傾向に推移したため生育進度は緩慢で前回調査時の予想よりやや遅れました。

2 止葉抽出期と出穂期の予想・・・出穂期は平年より7日～2日程度早まりそう！

【止葉抽出期から算出した出穂期予想】(平年：止葉抽出期4/19、出穂期5/1)(4月12日現在)

地区	茎立ち期	⇒	止葉抽出期(予想)	出穂期予想
長岡・三島	3月25～31日頃	⇒	4月12～15日頃	4月27～30日頃
和島・寺泊	3月23～25日頃	⇒	4月6～8日頃	4月21～23日頃

3 止葉抽出期追肥の確実な実施

- (1) 稔実粒数の確保と粒重の増加を図るため、追肥は適期に確実に実施しましょう。
(止葉抽出期とは、全茎の40～50%の止葉が抽出した時期です)
- (2) 施用量は茎数や葉色に応じて調整してください。

【止葉抽出期追肥の窒素施用量のめやす】

茎数(/m ²)	葉色(SPAD)	窒素施用量(10a当たり)
500本未満	45未満	2 kg
	45以上	1 (~2)kg
500本以上	45未満	1 (~2)kg
	45以上	ムラ直し程度

※過繁茂状態で葉色が濃い場合は、倒伏による収量・品質の低下を招く恐れがあるので追肥量は控えめにしましょう。

※多肥は硝子率が上昇し品質低下を招くので、生育診断に基づいて施用しましょう。

4 赤かび病防除の徹底

赤かび病は出穂から乳熟期に雨が多く、気温が高い年に発生が多くなる。農産物検査法での検査規格では、赤かび粒の混入限度は0.0%です。赤かび粒の混入防止のため必ず2回の薬剤防除を徹底してください。

防除時期	1回目：開花始めから開花期(出穂期後4～7日後) 2回目：1回目防除の7～10日後
防除回数	必ず2回実施を実施する(降雨を避けて防除する)

※ 薬剤防除は、登録内容・注意事項等を必ず確認して使用してください。